

第40回「議員と語り合い」報告書

文教厚生常任委員会 (No. 1)

開催日	令和5年1月24日 10時00分 ~ 11時30分		
開催場所	議会棟 第3・4委員会室		
団体名	霧島市児童クラブ連絡会	参加人員	4人 (男 0人:女 4人)
出席議員	山口 仁美、野村 和人、久保 史睦、川窪 幸治、阿多 己清 前川原 正人		
役割分担	班 長(山口 仁美) 記録係(川窪 幸治)		
テーマ及び具体的な内容	<p>研修会の充実に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が主導の研修会の開催もしくは、霧島市児童クラブ連絡会に委託しての研修会の開催を実施し、霧島市管内の児童クラブ支援員のスキルアップを目指したい。 <p>不登校の子どもたちの居場所作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールはあるが、勉強はいわゆる自習で行っていると聞く。学校には行けないけど、学童だったら行けるという子どももいるので、児童クラブで何かできないだろうかと思っている 		

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
意見交換での主な意見等	<p>学童指導員研修会の充実について</p> <p>◇現在の研修会への参加状況はどのようになっているのか。</p> <p>◆54のクラブがあり、16クラブが協議会に加盟している。研修会への参加人数は50人くらい。参加率向上のために市の方から強制的な取組はできないのか。これまでもお願いをしているが進んでいない。</p> <p>◇テーマによっては研修会への参加者が多くなると思うが、その場合はどのようにしているのか。</p> <p>◆参加人数によっては会場を2カ所準備している。他のクラブから転職してきた方の話を聞くとスキルアップのために研修会には行きたいが園が教えてくれないし参加させてもらえないのが現状である。</p>

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換の主な意見等

◇発達障害の子どもたちが在籍するクラブでの対応はどうか。

◆他のクラブのことは分からないが、補助金申請や療育手帳の関係もあるので対応はされていると思う。放課後児童支援員は専門職であり、子どもの命を預かるという意味では、学校は別々に分かれているが学童施設では違う学年が施設内に一緒にいるため、個性を見抜かなければならないので非常に大変であると感じている。

◇県・市の主導で、研修会が行われているが参加者が少ないということか。

◆放課後児童支援員の現任研修、また認定資格研修を鹿児島県が主催している。霧島市に限らず、出席率は、原則として1支援施設1名という募集になっている。鹿児島県・霧島市を含めて、児童クラブを底上げして研修会に積極的に参加してもらいたい。障がいの重さはあるが、そういう子供たち含めて安心して預けられる場所を、保護者としては望んでいる。障がい者研修会の場をもっと広げてほしい。

◇霧島市の学童クラブの研修会参加率が良くないということか。

◆連絡協議会に加盟されている所の参加率は良いが、加盟していないクラブの参加率が良くない、処遇改善キャリアアップ事業のある自治体もある。本市でも取り組んでほしい、支援員のスキルアップやモチベーションアップにもつながり、参加率向上にもなる。

◇初任者、中堅者とオンライン研修会が行われているが、参加率はどうか。また、機器の購入に関しても要望や相談をしたことはないのか。

◆キャリアアップの対象になる地域があるので、対象になる支援員の方々の参加率は良い。しかし、支援員の年齢的な幅が広いため、オンライン研修会のみで進めることができず、会場での研修会も必要且つ不可欠なものと考えている。ICTやキャリアアップ処遇改善と色々な相談や要望をしているが、コロナ対応に予算を使用していない。予算がないといわれると打つ手が無い。そこまで、いわれるのであれば市の主導で強制的に貴重な研修会への参加率をあげる手立てを考えてほしい。

不登校の居場所づくりについて

◇現在の教育支援センターに行くことで出席扱いになるのか。

◆出席日数にはなるが、不登校の児童生徒は続けて施設に通えなくなり、自宅で見ることができないのが現状だと思う。この状況を教育委員会と話し合いとして進めていけると、児童クラブでたくさんのおともたちも救えると考えている。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇不登校は、月に20日以上欠席した場合が不登校という定義がある。長期欠席者が現在、小学校は110人、中学校が254人、年々増加傾向にあるがどうか。

◆学校に行けずに支援施設に通っている子どもや、学校や施設には行けないが学童には遊びに来てくれる子どもたちがいる、このことを考えると、より身近な学童の支援員の活動が重要になると考えている。

◆中学校に進学してから不登校になるケースも多く、テスト期間中にも学童に遊びに来てくれる。何故学校や施設に行かないのか尋ねると、人間関係に疲れたとっている。来ると下の子どもたちの面倒や一緒に遊んでくれている。もっと支援センターやフリースクールだけではなく広い選択肢があると良いと思う。

意見交換での主な意見等 ◇放課後児童クラブでは、どのように関わっていきたいのか。

◆保護者が学童に迎えに来るため、保護者の顔が先生たちには見えることになる。支援員の先生方が、声をかけてくれる、そうすることで救われている保護者の方々がたくさんいる。

◆今、在籍している子どもたちも保護者も、学童の活動で助けられる場所づくりをしたい、そういう活動ができないのかと思っている。そこで、議員のみなさんに何とかしてほしい。

◇不登校の原因はたくさんあると思うが、多い理由はどうか。

◆保護者の方の話だと、ちょっとしたお友だちとのトラブル、学校内でのトラブルから担任の先生に話を聞いてもらえない、言い訳の上手な子どもの方に偏っている等で、先生に話をしても聞いてくれないのであきらめる、だから、学校に行かない、そのような件が5件ほどある。あるケースでは先生が入ることで拗れて大人に対する不信感になり、学校へ行かなくなる場合もある。

家庭環境もあり、ひとり親家庭に多くあると感じている。親がさまざまな理由で仕事を続けられずに金銭的な面からも親子関係がうまくいかず、学校や施設にも行かなくなるケースもある。

学童は早い時間から開けることが可能で、午前中に不登校の児童生徒をあずかることができる。このようなことから行政で検討・研究をして政策をたててもらえるとありがたい。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇子どもたちの居場所づくりの実践のために「従うべき基準」の参酌化と条例改正という部分、人員配置という点はどうか。

◆従うべき基準とは、児童クラブの配置基準の中で、資格を持っている支援員と補助員を1人、合計2名以上となっている。霧島市に関しては、条例で2人以上配置ということが決まっている。

◇児童クラブの先生方が要対協（要保護児童対策地域協議会）には入ることができるのか。

◆要対協にも入れていただけないかと要望しているが、行政の返事が重く、消極的な感じで、何かあれば学校の先生に聞いてほしいと言われ、どのようにしていけばいいかわからない。

意見交換での主な意見等